

2025 年 2 月 4 日
株式会社エクサウィザーズ
(コード番号：4259 東証グロース)

エクサウィザーズ、 自治体向けに DX リテラシー・DX 推進スキルを可視化できる 「DIA for 自治体」を開始

～ 総務省の「自治体 DX 全体手順書」に対応した、
自治体における目指すべき DX 人材像の項目とレベルを提供 ～

株式会社エクサウィザーズ（東京都港区、代表取締役社長：春田 真、以下エクサウィザーズ）は、DX 人材発掘・育成サービス「exaBase DX アセスメント&ラーニング」において、行政向けの新サービス「DIA for 自治体」の提供を開始しました。経済産業省と情報処理推進機構（IPA）が策定した「デジタルスキル標準」をベースに自治体向けの人材要件をプリセットしており、行政機関でも導入しやすい料金体系で提供します。全職員の DX リテラシーの可視化や底上げ、DX 担当者の推進スキルの可視化とレベルアップに課題をもつ自治体での活用を想定しています。



exaBase DX アセスメント&ラーニングの人材アセスメント機能は、「DIA」（Digital Innovator Assessment）として、これまで主に民間企業向けに、DX リテラシー標準、DX 推進スキル標準を横断的に測定できる「DIA」（旧名称：DIA3.0）および、DX リテラシー標準の測定に特化した「DIA Literacy」を提供してきました。

このたび、行政機関に特化して、より効果的な支援を可能とする DIA ver3.0 for 自治体 および DIA Literacy for 自治体をリリースいたします。特徴は以下の通りとなります。

☑職員の DX レベルに合わせた 2 つの可視化サービスの提供

DIA Literacy for 自治体を利用して、全職員の DX リテラシーの底上げを目的に、DX リテラシーを可視化することが可能です。

その後、DX リテラシーが高いと判断されたセグメントに対して、DIA ver3.0 for 自治体を受検いただくことで、行政機関の DX 推進を担うリーダーとして必要なスキルの可視化を支援します。

DIA for 自治体				
アセスメント名	DIA Literacy for 自治体		DIA ver3.0 for 自治体	
目的	全職員の DXリテラシーの有無とその詳細項目の可視化		DX推進者に必要となる DXリテラシーおよびDX推進スキルの可視化	
測定可能範囲 (スコア)	マインド・スタンス Why・What・How		マインド・スタンス Why・What・How DX推進スキル	
時間	30分程度		60分程度	
測定項目比較イメージ	DXリテラシー	マインド・スタンス Why・What・How	DXリテラシー	マインド・スタンス Why・What・How
	DXスキル	測定対象外	DXスキル (計25項目)	ビジネス変革
				データ活用
				テクノロジー
				セキュリティ
				パーソナルスキル

図 DIA for 自治体の2つのサービスの特徴

☑行政機関向けのDX人材要件をプリセット

総務省の自治体におけるDXを推進するための手順である「自治体 DX 全体手順書【第 3.0 版】」DX 推進リーダーに求められる人物像の人材要件が、DIA で測定できる尺度として一覧で確認できます。行政機関職員が目指すべきDX人材の定義をエクサウィザーズにて設定し、情報を提供します。

具体的には、自治体でDX推進リーダーを育成したいと考えたとき、DIA ver3.0 for 自治体では、戦略マネジメントシステムがLv4以上、データエンジニアリングがLv2以上といった条件を、エクサウィザーズ側で定めています。受験者には、アセスメントにおいてそれらをクリアするようにガイダンスしていただき、必要に応じてeラーニングやハンズオンの研修を受けていただいて習得していただきます。

※なお、独自に目指すべきスキルの設定が必要な場合は、別途有償で作成することも可能です。

カテゴリ	サブカテゴリ	学びの目標	標準レベル※1	再設定レベル※2	設定理由
ビジネス変革	マーケティング	マーケティング戦略策定・打ち手を推進する能力	1	2	住民向けサービス提供でマーケティング的視点は重要ですが、高度な戦略策定能力は必須としません。レベル2の「フレームワーク活用、顧客とプロダクト価値把握、ポジショニング明確化」で十分です。基本知識を習得し、実務で実践していくのが現実的です。
データ活用	AI・データサイエンス	データサイエンス力	1	2	DX推進リーダーはデータサイエンティストではありません。レベル2の「統計学基礎知識」を習得し、データ分析結果を理解・解釈できるレベルを目指します。高度な分析は専門家に委ね、DX推進リーダーはデータに基づいた意思決定能力の強化に重点を置きます。

※1 デジタルスキル標準レベル
※2 自治体 DX 全体手順書【第 3.0 版】レベル

表 プリセット人材要件のアウトプットイメージ

☑DIA for 自治体の提供形態

- ・アセスメント3回とeラーニングがセットとなったプログラム
- ・アセスメントのみのご利用（DIA Literacy for 自治体、DIA ver3.0 for 自治体）

アセスメントに関しては、1名から利用できます。

※具体的な料金や提供形態など詳細はお問い合わせください

なお、本件が2025年3月期業績に与える影響は軽微であります。

【ダウンロード資料】

DIA for 自治体に関するポイントなどをご覧ください。

https://event.exawizards.com/dxp/dia/2024206?utm_campaign=pr_0204

☑exaBase DX アセスメント&ラーニングについて

2019 年 8 月にリリースした exaBase DX アセスメント&ラーニングは、DX 人材育成を支援するプラットフォームとして、大手企業を中心に幅広い業界から支持を集めてきました。オンライン動画学習プラットフォーム「Udemy Business」と連携することで、専門的な学習コンテンツの提供も図っています。

2023 年 7 月には、経済産業省と IPA が策定した「デジタルスキル標準」（DSS）に完全準拠したアセスメント「DIA3.0」の提供を開始するなど、機能やコンテンツの拡充を図ってきました。近年は、特定部門だけでなく全社での受検・利用も増えています。

こうした実践的かつ包括的な取り組みによって、2025 年 1 月末に累計の利用者数が約 28 万ユーザー、利用社数約 2000 社となっています。

詳しくはこちらをご覧ください。<https://exawizards.com/exabase/assess-learning/training/>

【エクサウィザーズ 会社概要】

会社名 : 株式会社エクサウィザーズ（証券コード 4259）

所在地 : 東京都港区芝浦 4 丁目 2-8 住友不動産三田ファーストビル 5 階

設立 : 2016年2月

代表者 : 代表取締役社長 春田 真

事業内容 : AIを活用したサービス開発による産業革新と社会課題の解決

URL : <https://exawizards.com/>

＜広報に関するお問い合わせ先＞

株式会社エクサウィザーズ 広報 メール : publicrelations@exwzd.com